

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0673000550		
法人名	朝日ぶなの木会		
事業所名	グループホームかたくり荘		
所在地	山形県鶴岡市熊出字東村157-2		
自己評価作成日	平成22年 1月 6日	開設年月日	平成16年 2月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査日の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成 22年 2月 2日	評価結果決定日	平成 22年 2月 23日

(ユニット名 かたくり荘)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は①「地域の一員として」②「笑顔づくり」に取り組んでできました。待っているのではなく、近くの保育園に訪問に出かけ園児たちと交流を図り、また、認知症対応について原点に振り返り対応策をさぐり、それぞれの活動にて笑顔を増すことに努めてきました。春夏秋冬に合わせ旬の野菜を活かした郷土料理をご利用者様と共に作り、味わい話題として共に暮しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との「ふれあい」を大切に考え力を入れており、様々な活動をしている中でも、平成21年度国のモデル事業になっている出前介護教室「ふれあい教室」は法人グループで地区内の公民館を回り、寸劇を交えながら認知症を理解してもらう為数年継続実施し、その効果が浸透しつつあります。それらを含め1年間の地域との交流活動をまとめた「地域ふれあいホーム」のDVDは法人内の研究発表会「チャレンジ」で15チーム中、最優秀賞を受賞し、職員の励みにもなっています。敷地内に隣接する法人グループの地域密着型総合福祉の一つとして活躍が期待できる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	受け入れるばかりではなく、こちらから出向きGHの存在感をアピールして「地域の一員」として働きかけてきた。	法人理念・事業所理念の他に、今年度目標の「地域の一員として」「笑顔づくり」を日々心掛け、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあいを大切にすることを重視し、今年度は保育園への訪問を実施してきた。手作りの紙芝居なども大変に喜んでもらい、一歩前進できた。	ボランティアの受け入れ、保育園訪問、地域行事への参加や法人合同主催の夏祭りへの招待等を通して、目標にしている地域とのふれあいを実施している。地区内を巡回する「ふれあい教室」は数年継続しており、市主催の講師依頼もあり、地域への積極的な働きかけが見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「ふれあい教室」という形で地域を回りながら、認知症の理解のための寸劇を交えた啓蒙活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催にてホームの現況、ヒヤリはっと等事例報告を行っている。市の職員、メンバーから意見、情報を得ることができサービス向上に取り組んでいる。	2ヶ月に一度開催し、外部からのメンバーは家族代表・市職員・地区代表・民生委員の出席があり、報告・情報交換・意見交換をし、回数も重ね、有意義な会議となっている。出された意見等は職員も共有してサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進メンバーに市の職員も参加しているため、様々な情報交換ができています。困った時にはすぐに対応していただける関係にある。	市の分庁舎が敷地内にあり、担当者は頻繁に足を運び、保健師も常勤しており、報告・相談・情報交換を行ない、市職員の来訪もあり顔の見える関係である。介護相談員の定期的な訪問を受け入れ、時には利用者と一緒に食事する等、馴染みの関係になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関にはオルゴールを取り付け、随時人の出入りを確認したり、所在確認を行っている。また、落着かない歩行困難者に対しては床をいざってもらいできるだけマンツーマン対応で自由に動いてもらっている。	日中は玄関を開放し、ドアの開閉の時に鳴るオルゴールの音に注意しながら一人ひとりの行動パターンを把握している。帰宅願望の方には「行ってらっしゃい」と声を掛け見守りながら後ろを付いて行く等、安全面に配慮した支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	課全体の会議で研修を行い、虐待防止に努めて、デイご利用者様は入浴時にボディーチェックを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護受給ご利用者様を通して随時活用支援している。制度面においては勉強不足である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進メンバーの家族より意見をいただいたり、個々のケース会議などでも意見を求め、伝えている。	家族等とは何でも言ってもらえるような信頼関係を心掛けており、面会時にはこちらから話し掛け、意向・要望の把握に努めている。家族会での意見交換や利用者の嗜好調査等は職員会議で共有を図り、サービスの向上に活かしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議や日々の業務の中でも意見を求め、できる限り職員の意見を汲み取り反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の取り組みにて各自の向上心アップにつなげている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修には職員のレベルに合わせた研修会への参加を促し伝達研修を行い、実践に繋げる努力をしている。	年間計画された法人・事業所の内部研修は充実しており、外部研修にも交替で参加している。法人内の職員異動もあり、他の部署を経験する事によってレベルアップに繋がっている。資格取得、新人研修にも力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH協議会で取組んでいる研修に参加している。（交換実習など）	県・庄内地区グループホーム協議会や市のサービス事業所部会に加入している。研修会、交換実習により多くの職員が参加する事により、自分達の良し悪しが見え、情報交換等を通して、サービス向上の実践に向けて努力している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情や訴えから安心できる関係を築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訴えを傾聴、受容し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	該当なし		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様から「聞き方、調理方法、気遣い」を学ぶ。同じ時間を過ごし一方的な介護ではなくご利用者様の気持ちを汲み取り共に暮らすように心かけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼びかけの実施。またホーム内での生活の様子をケアプラン評価を月1回家族へ知らせている。随時個別に話し合いを設けている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	姉妹宅へ遊びに出かけたり、地元のドライブを楽しんでいる。出身地の方との交流(いきいきクラブ)を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士のかかわりが難しいことも多い。コーヒータイムで気の合う仲間との交流を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族様より手紙をいただいたり、遊びに来て話す機会が自然とできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン見直し時に意向把握に努めるようにしている。	担当の職員を中心にその人らしく過ごしてもらえたら最良なのか、家族等の意見も交えながら全員で考えている。会話の中に出てくるちょっとした言葉を聞き逃さず、意思疎通の困難な方には表情や仕草から汲み取り、希望に添った個別のサービスに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から随時協力していただきながら、生活歴を記入していただき背景を知るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	左記の通り		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に1回の見直しを行い年1・2回はご家族様、担当職員を含めて意向を確認しながら計画作成している。	利用者や家族等の希望、主治医・職員の意見や情報を取り入れ課題を引き出し、目標を持ち、3ヶ月毎に見直しを行ない現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケースに記入し、毎日のミーティングにて情報交換を行っている。申し送りノートにて全職員が共有を図り見直し時期に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員の協力にて一緒に笹の葉とりに出かけ、外気浴を楽しむと共に交流を持つことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医、家族様と連絡を取りながら対応をおこなっている。また、本人の意見を尊重し家族、D.r.への相談を行いながら対応している。	利用者等の希望するかかりつけ医に受診し、付き添いは基本的には家族等となっているが、ほとんど職員が支援を行なっている。受診結果を家族等には電話で連絡をし、職員は申し送りや健康管理ノートで確認し合い共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	健康管理ノートを活用し看護師との情報交換、支援を実施している。体調不良時には隣設の看護師がかけつけてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	家族からの情報提供を通じながら状況に合わせた対応を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	左記のとおり。家族の意向を伺いながら、かかりつけ医の協力を得て支援していく。	事業所の方針も明文化されており、家族等にはその都度状況に応じ説明をし同意を得ている。かかりつけ医や法人内の看護師等と連携を図り、職員全員で支えていく事の確認をしながら取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが定期的訓練は不足である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を中心に訓練している。法人全体で地域住民の協力を得た合同訓練も実施にむけている。	火災訓練は日中を想定し、9月（独自）と10月（消防署立会）の2回実施している。法人全体で災害時を想定し、月1回予告なしの職員訓練等もあり、繰り返し行なうことの大切さを重視している。水・乾パン・毛布等の備蓄もあり、日頃より災害に備えての訓練に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりに合わせた言葉かけや対応の仕方について考え支援している。自己目標にチェックしている。	職員は「自己点検表」を毎日記入し、日々の関わりに自分を振り返る「気づき」に活かしている。3ヶ月毎に目標を変え、プライバシーを損ねない支援に職員全員で取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ドリーム活動、行ってみたい所へドライブを実施、日頃の会話からヒントを得ることも多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定できる方は特に自分のペースで生活されている。希望をうまく伝えられないご利用者様も多いので表情を見ながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族持参の衣類を中心とし、その人らしいアイテムでおしゃれを支援している。（帽子、エプロンなど）		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特に調理は一部に偏っている面もあるが、片付けなどはできる人にできることを行ってもらっている。	職員は嗜好調査を行ない、希望メニューや行事食等を取り入れながら献立を立てている。山菜や自分達で育てた畑の収穫物の調理や味付け等には一段と活き活きし、出来る事を引き出し一緒に行ない、職員も同じテーブルを囲み、和みのある楽しく食事が出来るよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減を毎月確認している。高カロリー、野菜ジュースの活用など行っている。お茶が苦手な方はジュースなどで水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回の口腔ケアの実施。必要に応じて介助している。(週1回ポリデント洗浄)口腔ケア拒否者には食後にお茶を勧め口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々に合わせた支援を行っている。	一人ひとりのパターンを共有し、不安や不快な思いをさせないよう声掛けのタイミング等に配慮しながら、トイレでの排泄支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表の活用。食べ物、食物繊維物の取り入れ実施。取れない人は野菜ジュースを勧めている。どうしてもでない場合は下剤調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望を伺いながら実施している。自己主張できる方は個別にプランをたて、また機嫌の浮き沈みのある方は表情を見ながら個々に合わせて対応している。	一人ひとりの希望や習慣に合わせた支援をしている。拒む場合は無理強いしないで間合いとタイミングを計り、入浴剤の色や香り等を楽しみなものに繋げ、気持ちよく入浴できるよう工夫をしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日誌などを参考にしながら状況に合わせて対応している。落ち着かない時事務所で過ごしてもらうなど。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時、随時、確認申し送り、サンプル交換など行っている。内服薬による変化など表を作成するなどしている。(血圧)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知レベルに合わせて貼り絵、縫い物等、得意分野を提供し、達成感で喜びを味わう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、家族との協力にて外出ができるように支援している。	敷地内にある畑の収穫をしながらの散歩やスーパーへの買い物等に出掛けると共に、花見、サクランボ狩り等の季節を楽しむ行事やドライブ等を計画し、外に出る機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる部分は自己管理に任せている。紛失の恐れもあるため、家族の同意を求めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿温計を利用し、適温になるように調整している。また、壁飾りなどで季節感を取り入れるようにしている。（飾り月のポスター、ぬり絵、ちぎり絵）	ホーム内は開放的で天井も高く、高窓より差し込む光は明るく、木の温もりが家庭的な温かさを醸し出している。床暖された廊下、ホール、浴室等のホーム内は心地良く、対面式の台所からの調理の音や匂いの刺激を受け、生活感や季節感を感じ、一人ひとりゆっくりと寛いで過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースが、談話室、居間、食堂があり、それぞれ居心地よいスペースに行けるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる人は実施している。認知等によって怪我に繋がる恐れがでてきたり、混乱の原因にもなるため状況に応じた工夫をしている。	希望によりフローリングやカーペット敷きを選択することが出来、仏壇や写真等使い慣れた馴染みものを持ち込み、使いやすいように配置し、居心地の良い居室になるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干したり、調理の下準備など、できることを多く実施してもらっている。トイレへの目印も一時使用していたが、殆どの方が理解し職員が常に目配り対応している。		